Gallery-Treasure Box-



スポーツドクターとしての Road to TOKYO 2020

札幌市健康スポーツ医協議会 副会長 鈴 木 研 一

◆ スポーツドクター活動との出会い

私が医師として競技スポーツに携わることなったのは、亡父・鈴木伊佐夫が日本陸上競技連盟理事・北海道陸上競技協会会長として北海道マラソンの創設と運営に深く関わったことによるものでした。

唯一国内で夏季に行われる北海道マラソンは、 日本陸上競技連盟からオリンピックの暑さ対策と して位置付けられ、1992年バルセロナオリンピッ ク選考レースとなったことを契機に、ドーピング 検査体制を含む種々の医学的サポートを整える必 要性に迫られました。

そこで当時、市立札幌病院救命救急センターで 災害医療やプレホスピタルケアに関わっていた私 は、1994年に日本陸上競技連盟医事委員を命ぜら れました。

その後、日本オリンピック委員会強化スタッフ として2002年アジア大会(釜山)をはじめ日本代 表選手団の海外遠征に帯同し、更には我が国におけるアンチドーピングムーブメントの黎明期にドーピング検査に関わり、JADAドーピングコントロールシニアオフィサー(Senior DCO)として日本各地で行われるスポーツ競技大会や競技会外検査に携わっていました。

◆ ボクシング競技との関わり

2008年には、日本ボクシング連盟医事委員・北海道ボクシング連盟医事委員長に就任しました。この頃、世界のアマチュアボクシングを統括する国際ボクシング協会(AIBA)は、ボクシング競技での公平性と選手の安全確保に向けた取り組みの一つとして、AIBA認定リングサイドドクター制度を設ました。

私は2014年にイタリアで行われたAIBA Joint Seminarに参加してAIBA認定リングサイドドクターを取得し、翌年にはITO (International Technical Official: 国際技術役員)として、世界



2016 ボクシング世界ユース選手権大会(試合前健診)



2017 ボクシングアジア選手権大会

各地に赴き、試合前健診やリングサイドへの臨 席、更にはメディカルサポートチームとともに負 傷選手の救急対応に関わってきました。

◆ スポーツドクターの真の役割

最近のスポーツ界では、いたるとこで「選手ファースト」ということばが使われますが、本来の競技スポーツでの「選手ファースト」とは、選手を試合に出場させることや、勝たせることを第一に考えることではなく、"選手の生涯"を第一に考えることであると思います。

そして、スポーツドクターの重要な役割のひとつは、選手やチームにとって不都合なことでも、競技の安全性確保と公平性という観点から、専門職としての毅然とした判断とその指導力であると考えます。

◆ 2020東京オリンピックに向けて

現在、世界196か国のボクシング運営を統括す

るAIBAは財務・ガバナンス・倫理・審判に関する懸念から、オリンピック運営組織としての国際オリンピック委員会(IOC)の認定を一時的に停止され、2020東京オリンピックでのボクシング競技は、渡邊守成IOC委員(国際体操連盟会長)を座長としたIOC作業部会(IOC Boxing Task Force: IOC BTF)が開催権を持つことになりました。

このような経緯のなかで、私は期せずしてIOC BTFのITOに選任され、2019年11月に東京で行われた2020東京オリンピックボクシングリハーサルイベントに続き、アジアオセアニア地区の東京オリンピックボクシング最終予選大会(アンマン)に派遣され、2020東京オリンピック本番にも参加して、スポーツドクターとして微力ながらお手伝いをさせて頂くことになりました。

(緑の街診療所)



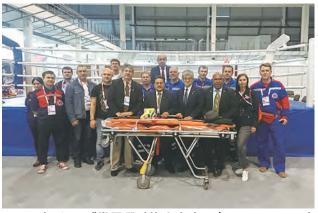
2019 ボクシング世界選手権大会



2019 ボクシング世界選手権大会 (リングサイド)



2019 ボクシング世界選手権大会 (リングサイドドクター)



2019 ボクシング世界選手権大会(メディカルスタッフ)



2019 ボクシング世界選手権大会 (閉会式)



2020 アジアオセアニア東京オリンピックボクシング 最終予選大会 (競技会場)



2020 アジアオセアニア東京オリンピックボクシング 最終予選大会(メディカルスタッフ)



2020 アジアオセアニア東京オリンピックボクシング 最終予選大会 (渡邊守成IOC委員)